巻　　頭　　言

高知女子大学看護学会長
野　嶋　佐由美

第45－47回高知女子大看護学会は、「人生100年時代の看護のShift」をテーマとして設定しました。人々の健康・健康問題が変化し多様化するなかで、人生100年一生涯を通して健やかに過ごすことができるように、支援し続ける看護の在り方を探求してきました。企画の時点はコロナ禍前でしたが、学術集会の時はコロナ禍最中であり、対面での開催を断念し、ON-LINE開催となりました。

新型コロナウイルスによる世界的なパンデミックスは、医療・看護のすべてのシステムに打撃をもたらし、今もって対応を迫られています。これまで表面化してこなかった医療・看護システムの脆弱な側面を浮かび上がらせ、早急に取り組むべき課題も明らかになりました。その一方で、コロナ以前にはできていなかったことが始まり、新たな挑戦もなされ、恩恵ももたらされました。科学的知見が国や文化を超えて世界中で共有され、その科学的成果が各国で試みられ、この知見に基づいて医療・看護領域で変革が生じました。これまで以上に、看護師・保健師・助産師の活躍も注目されました。変革の時期であり、すべての次元で、すべてのシステムでイノベーションが求められています。

第48－49回高知女子大学看護学会のメインテーマは、「イノベーション（innovation）」を取り上げ、まだ仮題ではありますが、「看護におけるイノベーションの創出」をテーマといたしました。

イノベーションは、オーストリアの経済学者ヨーゼフ・シュンペーターが、1912年に出版した著書『経済発展の理論』の中で、「新結合」という意味で用いられています。この理論は、日本で1950年代に「技術革新」として普及したのち、モノや仕組み、新しいビジネスモデルの「経営革新」などを説明する概念として使われるようになりました。また、昨今の科学技術の急激な進歩により、ICT、IoT、AI、ゲノム、ビックデータ、ロボテックス、デジタルトランスフォーメーション等の新たな技術があらゆる産業、社会に取り入れられ、イノベーションが起こっています。医療関係領域では、ゲノム医療、AI活用、PHR（Personal Health Record）、医療・介護現場の情報利活用、オンライン資格確認、データベースの効果的な利活用などが取り組むべきイノベーションとして検討され推進されています。また、高度な新技術だけではなく、既存の技術や考え方に新しい視点を結合し、新たな意義ある価値を創造することも、重要なイノベーションであると言えます。また、イノベーションは新たな技術や考え方を社会のなかで実装できることが必要であり、自然科学の「知」で完結することは不可能です。人文・社会科学の「知」との融合、「総合知」によって可能になるとも指摘されています。

実践の科学であり、ヒューマンサービスである看護にとってのイノベーションとは、身体・精神・認知・対人・社会に関わる新たな看護技術や考え方を活用して、看護の対象である個人や家族・社会に変化をもたらし、意義ある価値を創出することです。看護は、看護実践の中で、看護学の知の発展の中で、新しい価値を創造し、イノベーションを起こしているといえます。

振り返ると、看護はサイエンスとアートであるといわれていることからも、イノベーションの特徴の一つである「総合知」であり、イノベーションが起こる絶好の場であるといえます。また、アートにこめられた一回性の意味においても、対象者に応じて、その人、その時、その場に適した看護ケアを創造しているわけで、看護は常にイノベーションの可能性を秘めていると言えます。イノベーションの可能性を秘めた看護活動を発信することによって、さらに看護の知を吹込することによって、大きなイノベーションの世界に貢献することが期待されています。

高知女子大学看護学会編集委員会の努力によって、第47巻を発行することができました。編集委員会及び査読者の皆様共々サポーティブであり、コメントは建設的です。是非、この学会誌を活用し、発信してくださることを期待しています。今後も、多くの卒業生や修了生が投稿しやすい学会誌となるように、努力を重ねて参りたいと思っています。